

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第四十卷 「社会科学（二の序）」

個人・自然人と国家内人間集団・共同体および超国家集団の序説、総
記

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第四十巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、個人・自然人と国家内人間集団・共同体および超国家集団の關係の考察に関する全般的述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 ○歳〜十九歳

第二編 二十歳〜二十九歳

第一部 人生は「賭け事」

第二部 今年度の活動

第三部 勉強会・交流会

第四部 和歌、岩崎純一さんのお話を聴く会

（編集）精神障害者、巫女と私の共同活動（一）

第一章 一般国民女性の特徴

第一節 将棋に見る女性の能力の特徴

第二節 哲学科女性の自殺

第三節 スピリチュアル・ブーム

第四節 集団ヒステリー現象

第五節 現代日本女性の身体

第六節 未婚女性、シングルマザーの孤立

第七節 パワハラ、セクハラ、マタハラ社会

第八節 女性どうしの自浄作用

第二章 巫女の身体と巫女的身体

第一節 日本の巫女と世界のシャーマニズム

第二節 巫女舞

第三節 磐座での儀式

第四節 巫女と和歌

第五節 巫女の性的秘儀

第六節 カーマ・ストトラとの違い

第七節 解離性障害

第八節 転換性障害

第九節 身体表現性障害

第十節 憑依障害

第十一節 巫女の体質と女性性・母性

第十二節 三種の神器と母性

第十三節 男系男子天皇の本義としての女性の汎有

第十四節 女性の公有とマルキシズム

（編集）精神障害者、巫女と私の共同活動（二）

第一章 女性どうしの出会い

第一節 ウェブサイトを通じた巫女と精神障害女性の出会い

第二節 共通する身体

第三節 「許嫁」女性の身体と「性暴力被害」女性の身体

第四節 巫女と精神障害女性の共同活動の開始

第二章 私の参画と共同活動

第一節	女性たちからの個別の要請	第五編	五十歳～五十九歳
第二節	女性専用寮からの要請	第六編	六十歳～六十九歳
第三節	古今東西のユートピア思想	第七編	七十歳以降
第四節	哲学、宗教学による理論付け	第八編	著作者の一部および著作者が岩崎純一であるもの
第三章	神社及び社務所と巫女の自宅	第九編	著作者が岩崎純一であるもの
第一節	奉納祭祀と巫女舞の秘儀		
第二節	秘伝的要素		
第三章	女性寮への協力		
第一節	宗教との区別		
第二節	共用スペース		
第三節	個室		
第三編	三十歳～三十九歳		
第一部	「岩崎純一の個人交流会・勉強会」の整備について		
第二部	本年の勉強会・フィールドワークなどの活動報告		
第三部	女性専用スペースの設置、およびシェアハウス型女性寮の女性スタッフ・入居女性による特殊症状・知覚の解説の分担について		
第四部	非公開シェアハウス型女性シェアハウスとのコンテンツ連携について		
第五部	我々一人一人の人間に宿命づけられた生涯の仕事について（私に課せられた哲学的共同体・理想郷の追求）		
第六部	二〇一六年末の一斉送信メールの転載		
第四編	四十歳～四十九歳		

第二編 二十歳〜二十九歳

第一部 人生は「賭け事」

二〇一〇年七月九日 起筆、攔筆、公開

お久しぶりです。あまり更新していなくて申し訳ないです。まだ少し忙しいです。時間的にとりよりは、精神的にですが。

色々と陰で活動しているので、またご報告申し上げます。

そういうわけで、今まで通り、鬱や対人恐怖や強迫性障害などの心の話や、共感覚の話や、自閉症の話など、何でもメール相談は受け付けています。

●さて、世の中はどうなっているかと言うと、大相撲や参院選の話題で持ちきりですね。私は今二十八歳ですが、大相撲は三歳くらいからテレビで見っていました。かれこれ二十五年間、大相撲ファンをやってきたことになりました。

子どもの心には、ただ単に「あのお相撲さん、すごいぜ！」という感慨だけが焼き付けられるわけで、私の脳裏にも、貴闘力、霧島

といった名力士の姿は焼き付いているわけです。まさかあの力士たちが、今毎日のように頭を下げて謝罪している大嶽親方、陸奥親方になろうとは、夢にも思わなかったわけです。私の中での大相撲は、厳密には十年前で止まったままになってしまっています。

●秋葉原で無差別殺傷事件を起こした犯人の男性は、私と同年齢、誕生日は私より五か月遅い男性でありました。彼は、二〇〇八年六月八日（当時二十五歳）に秋葉原にトラックで突っ込んでいます。

彼と私たちとの間には、「今の二十代男性」として共通点があることも確かです。自分だけが浮いているのではないかという違和感、自分の人生だけが他の社会人と違うのではないかという猛烈な葛藤と共に二十代後半まで生きてきたこと。そして、それは本当だろうと思います。しかし、そこから先の対処が違う気がします。彼は「やはり自分は負けている」という結論に至ったのでしょうか。

私は男なので男のことしか言えませんし、男の世界である大相撲の話を出してしまったので、男のことだけ書きます。

「勝ち組」という言葉をやたらと聞きますが、それは目先の栄誉や利益のことを言っているにすぎないと思います。目先の賭け事で得られる「勝ち金」に似ていると思います。そういう生き方をする男もいるのだと思います。でも、少なくとも私は、人生そのものが賭け事のように思いますし、競馬などのギャンブルをやったことがあるか否かにかかわらず、そもそも人生という賭け事に生きる

男を最も強い男だと感じます。

そもそも男は、「死ぬときに勝っていれば、それでよい」と思いますが。「勝つ」相手は、他人ではなく、「自分が人間であることの実存苦への執着」であり、「人生を勝ち負けて判定する軽率な思考」だと思います。「わしの人生、これにておしまい。よし」と死ぬ瞬間に言えた男こそが、自己自身に対する真の「勝ち組」だと私は思います。

秋葉原の犯人や、先月の二十二日に広島のマツダの工場で自動車暴走による通り魔殺傷事件を起こした犯人は、「人生という賭け事に生きることを諦めた男性の「典型的な末路」だと思っています。決して男性の「珍しい異常な末路」だとは思わないほうがいいと思います。

彼らは、人を殺す直前までは、周りの男性の誰よりも立派な人生哲学者になれただろうし、極めて健全に現代日本社会の病理を見抜いていたかもしれないものを、人を殺すところから先は、やはり私とは違うタイプの人間なんだな、という思いを抱いたものです。

第二部 今年度の活動

二〇一一年四月五日 起筆、擱筆、公開

地震の後で、まだ落ち着かない日々ですが。

今年度は、共感覚者の会、心の病について考える会、言語学・ス

ラフォーリア研究会などを、こまめに開く予定です。

本当は、話題どうしに厳密に境界線を引けるわけがなく、全ての話題をまとめた会にしたいし、哲学論議でもしたく思うけれども、それだと岩崎純一の会になってしまっておそれがあり、何だか怪しい（！？）ため、一応、名目上は分割させて、話題ごとに「の会」とするので。人数は、相変わらずほんの数人（二〜五人くらい）ずつですが。

それから、私の共感覚についての二冊目の著書が、もうすぐきつと出版されます。これは、「女性に対する共感覚」を説明し、そこから「他人を思いやるとはどういうことか」などを語っている著書です。

第三部 勉強会・交流会

二〇一一年四月二十六日 起筆、擱筆、公開

数人ずつ集まって、私の本や共感覚についての質問を受けたり、言語学などの話をしたり、共感覚・鬱・対人恐怖症・解離性障害などの心の症状について語らうなどします。場所は東京都内中心になりますので、ご了承ください。

詳しくは以下をご覧ください。

<http://iwasakijunichi.net/benkyokai.html>

（二〇一八年八月七日に追記・現在、『全集』に収録。）

第四部 和歌、岩崎純一さんのお話を聴く会

二〇一二年四月二十二日 起筆、擱筆、公開

サイトの「活動総覧」と「研究会・講義テキスト」に色々と追加しました。

（二〇一八年七月十二日に追記・現在、『全集』に収録。）

<http://iwasakijunichi.net/joho/>

<http://iwasakijunichi.net/kenkyukai.html>

前回の和歌について記事の追記ですが、今年は『古事記』編纂一三〇〇周年ということで、イベント事や歌会などに和歌を詠進する必要があるのです、和歌をサイトに載せられなかったり、載せてある和歌を一時的に掲載停止にすることがあるかもしれませんので、ご了承ください。

普段の私の歌風は、他の歌人様からは「象徴主義」、ひいては「唯美芸術至上主義」とまで呼ばれているのでして、むしろ西洋の象徴

主義・唯美主義・世紀末芸術などの分野の愛好家からのアプローチが多いです。

そういうわけで、あまり重い芸術性を帯びていないイベント事に和歌を詠むほうが、実は珍しいのでした。

それから、二冊目の拙著の読者の方々が、昨年ひらいて下さった、ミニ読者座談会「岩崎純一さんのお話を聴く会」◆テーマⅡ日本の女性の情緒について」の録音内容を、文字起こし・編集して下さいたので、それも「研究会・講義テキスト」に載せました。

これも、「古代巫女」についての講話にもなっている点で、『古事記』にも関連していると言えそうです。

このミニ勉強会は、大学や学会での正規の講演とは別に、東京大生と都内の女子大学生が少しずつ集まって、「もっと岩崎さんの踏み込んだ話や本音を聴きたい」という主旨でひらいて下さり、あとでまとめて下さいました。全然「ミニ」ではなくなりましたが。家政学・看護学・幼児教育などの方面からのご興味でした。

そういった講演や座談会以外の、理系方面からの私の共感覚・特殊感覚についての実験調査については、今のところ、主なタイトルだけ「活動総覧」に載せてみました。

よく考えると、もう残された実験調査と言えば、私の遺伝子・脳活動データ・血液などを大学・研究機関に提供することくらいですね……。

第三編 三十歳〜三十九歳

第一部 「岩崎純一の個人交流会・勉強会」の整備について

二〇一五年八月十三日 起筆、攔筆、公開

「日本共感覚研究会」は、二〇一五年七月末より「岩崎純一の個人交流会・勉強会」の一つとして機能しているため、サイトのアドレスも以下の通り変更となっております。

◆日本共感覚研究会

<http://iwasakijunichi.net/jssg/>

「岩崎純一の個人交流会・勉強会」
(少人数制、会員制、1対1可、
分野別選抜制、都内・関東中心、
新規会員随時受け入れ可)

このたび、七月下旬に私の「個人交流会・勉強会」の運営形態を、よりいっそう整備・拡充させました。以下のページに全て記載しています。

長々と難しいことを書いていますが、ごく一般のご参加者については、ルールを守って楽しくご入会・ご参加いただく限り、普通はお気楽に会員規程のみをご覧の上、お申し込みいただければ十分です。

今のところ、まだ和気藹々とした個人サークルだと言えますし、役員以外の会員の皆様方にはまだ全く影響のないことですが、万が一、交流会・勉強会の規模が大きくなって民法の範囲を越えたり、

特に学術的専門性の高い附属サークル（日本共感覚研究会など）の社会貢献度が高まったりして、定款に従い理事会で一般社団法人化が議決されるようなことがあれば、役員をそのまま法人法上の役員に昇格させ、当該組織に移行できるよう、体制を整えています。

また、今回の規約の整備は、会員どうしや会員と共感覚詐欺セラピストらがトラブルを起こしたり、共感覚詐欺セラピストらが入会しようとして私（岩崎）と関わろうとした場合などに、当該セラピストらを正当に除名・追放するための明文化された規定を設け、法的責任の所在を明確化するためでもあります。

このほか、ご自身がお持ちの共感覚や発達障害・学習障害が、親・兄弟・職場の上司や同僚・友人・パートナーなどから侮蔑されたり虐待・いじめ・パワハラの原因にされたりしている会員や、障害者施設・DVシェルター・被害者施設・性被害者施設などからご参加されている会員を、加害者から保護し、本会への加害者の接近や入会を阻止するためでもあります。

会員制度および規約の整備により、会員の皆様と私（岩崎）や本会との関係は、一定以上の契約関係になりますが、ごく普通に良識の範囲内でご参加いただく限り、特に大きな変化はないと思っただけで結構です。

● 「岩崎純一の個人交流会・勉強会」

<http://iwasakijunichi.net/benkyokai.html>

（二〇一八年七月十二日に追記：現在、『全集』に収録。）

第二部 本年の勉強会・フィールドワークなどの活動報告

二〇一五年十二月二十三日 起筆、擱筆、公開

（二〇一八年七月十二日に追記：現在、リンク先の内容は『全集』に収録。）

「日本共感覚研究会」は、二〇一五年七月末より「岩崎純一の個人交流会・勉強会」の一つとして機能しているため、サイトのアドレスも以下の通り変更となっております。

◆ 日本共感覚研究会

<http://iwasakijunichi.net/jssg/>

本年のサイト関連活動のうち、オフ活動を中心に、以下にまとめましたので、ご参照いただければ幸いです。

【交流会・勉強会全般】

本年も、回数は少ないながら、勉強会・オフ会を開催しました。

ご参加者の皆様には、心より御礼申し上げます。

「岩崎純一の個人交流会・勉強会」
(少人数制、会員制、1対1可、
分野別選抜制、都内・関東中心、
新規会員随時受け入れ可)

主催の私は、時間的制約はそれほどない一年でしたが、仕事その他に心理的に忙殺されて、なかなか共感覚その他のサイト本来の内容に集中できず、回数は少なくなっていました。

そもそもサイトの内容（共感覚研究、文芸、言語体系考案、新しい人的交流・コミュニティの建設など）そのものを仕事とし、学術的知見の蓄積に邁進できるような状況を構築できれば理想なのですが。

私のリーダーシップ不足もあり、皆様にはご迷惑をおかけいたしているところです。

【知覚・共感覚関連】

本年の初頭に、「共感覚記憶データベース」として、新たな共感覚の例を多く掲載しました。これ自体は、楽しいものでした。

岩崎純一の
共感覚記憶データベース

文理系双方の研究者からのアプローチは本年もあり、私の共感覚や脳神経系のはたらき、他の霊長類のしている世界との類似を研究したいとのご要望もございました。

ただ、やはり共感覚研究の予算を有利にとるための学会などの短期決戦が求められる状況では、このような私の共感覚や膨大なデータベースの研究は、時間がかかってどうしようもないようです。いわく、「岩崎さんの共感覚学術体系が哲学的・芸術的なものとして完

成しすぎていて、学者の私たちが手を出せない」上、「何らかの共感覚事業に生かせるようなものとは考えられない」とのことで、残念ながら本年は神経科学系の学者・研究者の意向には合致しませんでした。

（この「共感覚事業」とは、下方の「共感覚イノベーション」関連の話にも関係します。）

一方で、日本大学芸術学部にごゲスト講師として呼ばれ、宮沢賢治や尾崎翠などの日本近代文学における共感覚表現から始まって、共感覚者としての人生全般や哲学について、お話してきました。大変に心地よいものでした。

また、大学院生・大学生・高校生・中学生・小学生から私の共感覚を学習発表や卒論のテーマに選びたいとのご要望もありました。未成年の場合、学校の先生を通じて書簡で依頼状をいただくこともございました。

こちらにも全面的に協力はいたしましたし、子供との交流は楽しかったですが、礼儀・コミュニケーション・社会通念上のやりとりという点については、少なからず不満の残る一年でした。

例えば、中学生・小学生に対して私の共感覚データをPDF添付や画像ファイルのいずれで送信すれば学校の設備・端末や彼らの学習上の都合に合致するかを、担当教員に伺っても、返信がなかったり雑な返答しかないなど、大変に困ったものでした。担当教員には、私と同世代の方々も多いですね。もっとしっかりしていただきたいと、じれったく思いました。

日本共感覚研究会

一方で、「自分も共感覚を公表したいが、岩崎さんは共感覚の公表が親類・職場・友人・知人に知られたときに失う社会的リスクの危険性とどう向き合っているのか」といった悩み相談も、受験生・新卒生などから受けました。こればかりは、毎年のように相談を受けます。

さらに本年は、昨今の危険ドラッグの流行と共感覚との結びつけに悩まされる一年でもありました。

元々、LSDの服用が共感覚をもたらすなどの知見は知られていますが、日本の危険ドラッグ使用者らが身勝手に、こういった知見から共感覚に興味を示し、私にアプローチしたものと思われまます。こういった状況に鑑み、共感覚と覚醒剤・麻薬・危険ドラッグとの関

係をクローズアップする目的も兼ねて、これまた私自身が日本共感覚研究会を立ち上げました。

●日本共感覚研究会の調査報告書

<http://iwasakijunichi.net/jssg/hokokusho.html>

●麻薬・覚醒剤・危険ドラッグ・指定薬物等による共感覚の出現の知見の有無と当該薬物の国際条約及び世界各国・日本国の法令等における扱いとの対応表

<http://iwasakijunichi.net/jssg/hokokusho/hokokusho4.pdf>

違法性がある場合、私は容赦なく警察や自治体に通告し、日本の自称共感覚者たちをもどろんどん捜査すべきだと勧めています。しかし一方で、良くも悪くも、強烈な共感覚をもたらす成分の詳細まで、危険ドラッグ使用者の「おかげで」分かってきてしまいました。あくまでも学術的知見として学術目的において、研究会サイトの報告書をご覧ください。

それに、「共感覚イノベーション」などの言葉が政府機関や政府系特殊法人の事業計画などで流行していきまして、一体それが何なのか、どれほど国費や税金を無駄使いすることになるかを追求するため、以下のような研究も始めました。

●産学官民による「共感覚・知覚・感性」関連事業の二〇二〇年東

京オリンピック・パラリンピック利権化に対する注視

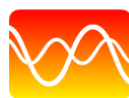
<http://iwasakijunichi.net/jssg/hokokusho/hokokusho6.pdf>

ただし、ここまで書いておきながら言ってしまうのですが、私は、日本の共感覚研究は、悲観的な意味で社会的にも時代的にもほぼ終わっているものと考えています。今後の日本で、私利私欲を我慢して本気で取り組む人物が出ない限り、後世に残るような深遠な内容を持った知覚・共感覚研究の知見など出ないと思っています。

学者・研究者や大学の動向を見る機会は極めて多い方ですが、興味深いことに、共感覚研究でも、共感覚が金になることが確認されないと、共感覚関連の研究室に設備を導入することができないわけです。逆に言えば、共感覚が「共感覚事業」として金になるかのよう、上手に国や自治体、大学の運営陣にアピールできている学者・研究者にばかり、優先的に予算が投入されています。悲しいことだと私は思います。

日本共感覚協会のサイトも閉じられました。

【超音波知覚者コミュニティ東京】



超音波知覚者コミュニティ東京
COPULASA-Tokyo

超音波装置探索フィールドワーク、超音波知覚の検証、
聴覚・共感覚の研究、コウモリなど動物の超音波研究

これも知覚関連コンテンツの一つと言えますが、本年は特に大きな成果がありました。「東京タヌキ探検隊！・東京コウモリ探検隊！」の宮本拓海隊長との共同研究・フィールドワークの実施、およびその報告書については、以下に示した通りです。

● 「バットディテクター（コウモリ探知機）を用いた池袋・丸の内地区の超音波装置の設置箇所などの探索・特定および岩崎純一代表の超音波知覚の検証のためのフィールドワーク」

<https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-blog/165547993.html>

● ニコニコ学会αの動画が公開（超音波知覚者コミュニティ東京へ

の東京コウモリ探検隊！ 宮本拓海隊長のご協力）

<https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-blog/170411436.html>

この報告書については、来年、知覚・共感覚関連でお世話になっている東京大学の音声学・物理学などの諸先生方などにお配りして、予算と学生の投入を促すか、それとも宮本氏のように在野の非専門家としてのシチズン・サイエンス（オープン・サイエンス）の矜持を保ち、このまま私的学術サークルとして進んでいくか、検討する年となるでしょう。

本年は、丸の内地区に加えて、池袋地区にも、多数の超音波発生機器を発見し、以下のブログ記事を書くに至りました。西武池袋本店のネズミ防除装置の発見から始まった同地区の研究は、セゾン・そごう・西武・西友グループ系列の店舗全体へと広がっています。装置の設置は、各テナントではなく、企業方針であることが分かってきました。

本店・支店級の代表電話やインフォメーションセンターの窓口の女性の皆様に、装置の設置が企業方針であるかどうかを尋ねてきましたが、超音波知覚への関心どころか、自社の設備についての物理学上の知識を持つて対応しているはずがありません。

ただし、お一人だけから「はい、設置しております……。私にも超音波が聞こえています……。」との回答を得ました。超音波装置の設置が西武系列企業の方針であるとの完全な確証をとるのは、来年になりそうです。



岩崎式日本語については、以下の「岩崎式日本語ペディア」を立ち上げ、使用者の多くを占める性被害者施設やDVシエルトターの皆様による編集協力を可能にしました。

岩崎式日本語を中心とする一大文芸体系の創作も、今後いっそう

●超音波発生装置のもう一つの牙城　　池袋の西武・LIBRO・PARCO・西武池袋駅構内

<https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-blog/154668379.html>

【言語学・言語体系考案関連】

期待できるかと思います。

【精神病理学・精神疾患研究】

これについては、本年も勉強会メンバーを中心に、各種精神疾患罹患者との交流を深めてきました。解離性障害、PTSD、強迫性障害、不安障害、統合失調症、発達障害、性被害を抱える方々など。

人生なんてたかが八十年ですので、生きていく間になるべく多くのタイプの人々の存在を知りたいと思うばかりです。街を歩いたり仕事をしているだけでは、街や仕事に出られるタイプ（二種類）の人たちにしか出会えません。その面白みのなさを超えるのが、私のサイトの最大目的の一つです。

ところで、昨年と今年は、アメリカ精神医学会がDSM5を発表したことで、世界的な精神疾患の枠組みが変わる過渡期なのです。「アスペルガー症候群」がなくなったり、「障害」が「症」になったり、「症」が「障害」になったりしています。ややこしいものです。

●精神病理学・精神疾患研究

<http://iwasakijunichi.net/seishin/>

【和歌関連】

和歌関連については、旧余情会のメンバーが全国でばらばらの小規模神社の巫女になったりご結婚されるなどして、私なんかと和歌を嗜んでいる場合ではなくなり、お上品なネット歌会は雲散霧消しつつある状態です。

私自身の和歌集については、生涯を通じて編纂していく予定ですし、人生のある時期には滞ることがあっても、やめることはないでしょう。

あるいは、言語・言葉関連の活動は、丸ごと岩崎式日本語・岩崎式言語体系の活動に引っくりくることも考えないといけないのかもしれない。

● 和歌・古典

<http://iwasakijunichi.net/waka/>

● 『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』

http://iwasakijunichi.net/ronbun_ippan/kado.htm

● 『新純星余情和歌集』（しんじゅんせいよせいわかしふ）及びその全解

http://iwasakijunichi.net/ronbun_ippan/shin_junsei_yosei_wakas_hu_hyoshi.htm

第三部

女性専用スペースの設置、およびシェアハウス型女性寮の女性スタッフ・入居女性による特殊症状・知覚の解説の分担について

二〇一六年三月十四日 起筆

二〇一六年四月三十日 公開

二〇一七年九月十二日 更新

二〇一七年十月二十九日 最終更新

岩崎純一のウェブサイト
女性専用スペース
Women Only

女性専用スペースの設置・管理・運営について
一部の内容を女性専用スペース（女性スタッフが管理）へ移管した

ページについて

女性寮（女性シェアハウス）と私（岩崎純一）の連携の経緯

「岩崎純一のウェブサイト」に以前より解説のある精神・身体症状や特殊知覚の一覧

世界保健機関（WHO）の ICD、米国精神医学会（APA）の DSM などに定義されている精神・身体症状や特殊知覚

世界保健機関（WHO）の ICD、米国精神医学会（APA）の DSM などに定義されていないが、これらに定義されている精神・身体症状と関連のある特殊知覚

日本共感覚研究会が注意勧告している共感覚セラピーや共感覚ヒーリング、共感覚の科学的・心理的実験についての被害のうち、性的虐待や脅迫行為、暴言などに伴う PTSD などの重大なストレス障害

女性専用スペースへの移管内容について（女性スタッフ・入居女性に解説をお願いしている精神・身体症状や特殊知覚について）

女性専用スペースの設置・管理・運営について

このページには、精神・身体症状や共感覚、その他の特殊知覚様態などのうち、女性に特有のものについて私（岩崎純一）にご相談下さっている（ご相談を検討されている）女性の方々向けの解説を書いています。

当サイトの運営や、大学での講義、執筆活動、各種サークル活動などの一連の活動の開始から十数年が経った現在、これらの症状や知覚様態をお持ちの女性の方々との交流も、面識の有無を問わなければ三五〇名を超えるに至っており、面識を持った女性の皆様から頂いた様々な悩みのご相談や、お預かりしている体験談・日記・手記、私からの回答の蓄積は、膨大なものとなっております。

そのような中、女性の皆様から私にご相談をお寄せいただいているこれらの精神・身体症状などのうち、社会通念上、男性である私のサイトで扱うよりは、女性の皆様自身が解説・管理・運営を担当したほうが望ましいものがあると考えてきました。

そのため、二〇一五年九月以降、該当する症状の解説、ご相談、体験談などについては、特に密に連携させていただいている女性の皆様に更新をお願いするようになっており、当サイト内の女性専用スペース（サイトシステムも私が提供）に移管しております。ご覧いただくには、ログインが必要です。

ご相談は、従来通り私宛てにもお送りいただけますが、症状の解説、ご相談、体験談そのものは、私から女性の皆様に移管したものである、ということです。

現在は、主に「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「(統) 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」のメンバーで、女性寮（精神障害、DV・性被害、共感覚などを抱える女性による非公開シェアター型シェアハウス）にお住まいの女性スタッフや入居女性に、管理をお任せしております。

岩崎純一のウェブサイト
女性専用スペース
Women Only

二〇一七年九月末までは、私からの強い要望により、別サイトとして運営していただいておりました。しかし、「岩崎さんが中心となって管理していた頃と同様に、女性の皆様と岩崎さんとの密な連携と、岩崎さんの監督があつたほうがよいのではないか。最初にご相談を受けた岩崎さんが、引き続き窓口になったほうがよいのではないか」という女性の皆様からのご要望を受けて、半ばこれを取り入れ、私のサイト内における女性専用スペースという形式で管理・運営していただくこととなりました。

女性専用スペースのログインページをご覧になりたい方は、スペースのトップページから私にお申し込み下さい。女性スタッフとの相談の上、ログイン用のIDとパスワードを発行いたします。

これらの女性スタッフの皆様は、私のサイトへの常連の女性訪問者で、様々な精神・身体症状や共感覚、その他の特殊知覚状態への

理解度が高く、解説も学術的に高度で的確なものになっています。後から私のサイトを訪れて下さった女性訪問者の皆様も、これらの常連女性の皆様にご自身の症状などを、私を通じてご相談いただけます。

何らかのご不安やご不明な点がある場合、私の公式メール（学術関係、仕事のご依頼など）、個人メール（ご質問、私信など）、メルフォーム宛てにご連絡下さいますようよろしくお願い申し上げます。

← ← ご参照下さい。

精神疾患研究トップ

（今までの交流）

精神疾患に関連する私の文章の一覧

精神疾患の定義

精神疾患の分類

私の考え・思い・持論

一部の内容を女性専用スペース（女性スタッフが管理）へ移管したページについて

岩崎が女性スタッフに管理・運営代行をお願いしたコンテンツが、

予定通り女性専用スペースに移管されると、そのコンテンツがあった元のサイトページへのリンクメニュー項目に一部の内容を女性専用スペース（女性スタッフが管理）へ移管したページマークが付されます。ただし、移管予定のコンテンツがまだ元のページに残っている場合もあります。

女性専用スペース

女ス

女性寮（女性シェアハウス）と私（岩崎純一）の連携の経緯

二〇〇四年の「岩崎純一のウェブサイト」の開設以来、ありがたいことに、サイトを通じて多くの方々との交流が生まれてきました。私自身が様々な学術研究サークルを立ち上げているほか、常連訪問者の皆様によっても別個にサークルが立ち上がってきました。

全体で見ると男女比は同程度ですが、精神・身体症状や共感覚、その他の特殊知覚・症状に関するご質問・ご相談に絞ると、約八割が女性からのご質問・ご相談となっています。学術的観点でのご質

問から、日常生活での個人的な苦悩に関するご相談まで、内容は様々です。

こうして育んできた私（岩崎）に関連するサークルは、現在、下記の通りに大別されますが、これらのサークルを将来的に取りまとめ、一つの統括的な研究会の中の部班の位置づけとするため、部班制への改組の準備が開始されています。

私に関連するいくつかのサークルの本部は、私が研究のために訪れ、関わってきた女性寮や女性シェアハウスなどの女性施設のうち、とりわけ縁の深い東京都内のシェアハウス型の女性寮（非自治体・非NPO系で、個人の出資・経営。当サイトの女性専用スペースにて紹介）に設置されています。この寮の入居女性の多くは、私にご相談を受けて交流してきた、精神・身体症状や共感覚、その他の特殊知覚・症状を持つ女性で占められています。女性スタッフ・入居女性が各サークルの本部・支部を構成しています。

←← 岩崎関連のサークルについて

部班制への改組

岩崎純一さんのお話を聴く会

（入居女性が立ち上げ、開催。女性寮内に移管。）

岩崎純一さんのお話を聴く会

続 岩崎純一さんに会いたい会

（元は東京藝術大学で女子学生が一度開催。入居女性が「続」として再び立ち上げ、開催。女性寮内に移管。）

続 岩崎純一さんに会いたい会

岩崎純一さんとの合同勉強会

岩崎純一さんとの合同勉強会

（元は昭和女子大学・大妻女子大学などで女子学生が開催。入居女性が再び立ち上げ、開催。女性寮内に移管。）

岩崎の個人交流会・勉強会の各附属・派生サークルの一覧

（ほぼ全てが岩崎が立ち上げたサークルで、岩崎が代表、会長、主宰などを務める。女性寮内に本部・支部を設置しているものも多い。）

附属・派生サークルの本部・支部（ご協力者）への直通メール一覧
（同前）

（二〇一八年七月十二日に追記…現在は廃止し、統一アドレスへ。）

私は、長年に渡り、様々な精神・身体症状や特殊知覚を持つ方々との出会いを自分なりに大切にし、医学的解説と私見（私なりの持論）の両方をサイトに網羅的に掲載してきました（下記参照）。そうしたところ、いくつかの女性寮や女性シェアハウス内で、口コミに

よりこのサイトの内容が広まって、ご生活の参考にさせていただけるようになり、入居女性の皆様からのご相談が私に相次ぐようになりました。

こうして、現在のような女性の皆様と私との連携の形成につながりました。それ以来、回答・交流を繰り返しているうちに、やや閉鎖的ながらも、他のサークルを含めた岩崎関連コミュニティが、一つの寮を中心として形成されるに至っています。

私も、ささやかながらこの寮を支援しており、寮の皆様からも多くのご協力や情報を頂いています。私からは、入居女性が自由に症状や生活モデルを解説・公表できるよう、前述のように、サイトのシステムも「女性専用スペース」として提供しています。

また、寮内の勉強会の講師などとしてお邪魔させていただくこともあり、男性であるため、寮の個室やユニットスペースの外にある共用スペースまでしか入ることができませんが、女性スタッフの皆様と共になんとか深い連携を模索しています。

逆に、私を通じてこの寮に入居する女性も出てきているほか、職場・社会や大学の環境や家族・親族関係などに溶け込めない女性どうしが語り合うシェアハウスにもなっています。元より共感覚については、当初より女性からのご相談が圧倒的に多かったですが、今となっては、精神障害によってかえって共感覚が蘇った女性も入居者に含まれています。

余談ですが、私は頑固なことに、（よくあるタイプの）スピリチュアル・カウンセラーや共感覚セラピストなどを自称して相談料をと

る職業を全く信用しておらず、私自身は、あくまでも閲覧・質問・相談の全てが無料である個人・私人サイトとしての運営を、延々と継続しております。また、それが私の活動の特質であるようです。

ただし、その分だけ、決して世に出ず行政からも軽視されているこういった女性の皆様の生活実態に関する膨大な情報（日記、被害記録など）と知見・知識が、多くの精神科医やカウンセラー以上に、私のような人間に極めて偏って蓄積されていることだけは確実であると思われまます。こうして私に蓄積された情報と知見・知識を、しっかりと吟味・研究することが肝要であると考えています。

（むしろ、精神科医やカウンセラーやNPOの職員らから二次的な暴力や性的いやがらせを受けた女性が私のサイトによく訪れて下さること自体に、皆様にとつてのいわば「駆け込み寺」としての私の活動の特質が表れているのでしようし、今のスタイルを継続したいという私の大義名分につながっているわけです。）

従って、この寮は、半分は私のサイトから生まれた女性シェアハウスとも言えそうですが、何より、私自身がこれらの症状や感覚の保持者のことを大切に思っています。

このような縁があつて、この寮内にその他の各附属サークルの一部をも移管して本部または支部とし、全サークルの統括管理者である私の活動と連携しています。

この寮は、今後の日本において、重大なトラウマを抱える女性や特殊知覚を持つ女性にとつての共同体・集住の一つのモデルとなりうると思います。このようなハウスシェアリングは、私と関わりの

ある男性施設（言葉を解せない自閉症・言語障害男性や、暴力を振るう反社会性パーソナリティー障害男性などが生活）には見られないグループ化現象であり、興味深いところです。女性どうし特有の問題も、それなりに色々と出はいますが、いつも自助努力による解決が見られて、安心していきます。

「岩崎純一のウェブサイトに」以前より解説のある精神・身体症状や特殊知覚の一覧

世界保健機関（WHO）の ICD、米国精神医学会（APA）の DSM などに定義されている精神・身体症状や特殊知覚

英数字部分は、世界保健機関（WHO）の ICD-10 による障害・疾病のコード。この岩崎の解説ページの順序は、ICD と米国精神医学会（APA）の DSM の折衷案であるため、やや番号が前後しています。

重大な DV（ドメスティック・バイオレンス）や性的暴行・性被害に伴うトラウマや精神疾患、身体上の性関連障害・性依存・性症などに伴うトラウマや精神疾患など、女性に特有の症状であっても、ICD と DSM に定義される限り、岩崎が解説を網羅的に執筆し、提供しています。従って、ご相談は、岩崎宛てにお送りいただいても女性寮宛てにお送りいただいても結構です。

精神病理学・精神疾患研究

- ICD-10 F00-F09 器質性精神障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F10-F19 精神作用物質による精神・行動障害（この寮では該当女性を受け入れていない。ページ解説も岩崎のみ。）
- ICD-10 F20-F29 統合失調症（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F30-F39 気分障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F40-F42 不安障害・恐怖症・強迫性障害・心的外傷後ストレス障害（PTSD）（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F43 身体表現性障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F44 解離性障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F43 適応障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F50 摂食障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F51 睡眠障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F52-F53 F64-F66 性関連障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F60-F63 人格（パーソナリティー）障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F70-F79 知的障害（他の女性スタッフと一緒に主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F80-F89 発達障害・学習障害（寮では主に個室 A に居住。）
- ICD-10 F90-F98 小児期・青年期の行動・情緒障害（寮では主に個室 A に居住。）

← 岩崎宛てのご相談の例

- 現代日本人の心理の例（目次・凡例）
- 現代日本人の心理（二〇一三）
- 現代日本人の心理（二〇一二）
- 現代日本人の心理（二〇一一）
- 現代日本人の心理（二〇一〇）
- 現代日本人の心理（二〇〇九）
- 現代日本人の心理（二〇〇八）
- 現代日本人の心理（二〇〇七）
- 現代日本人の心理（二〇〇六）
- 現代日本人の心理（二〇〇五）
- 現代日本人の心理（二〇〇三）

以下の資料の図（岩崎が作成し、勉強会で使用したもの）は、主に解離性障害者による自己についての実感の報告を模式化したものです。

●研究会・講義テキスト

★自己意識の減失・解体・分裂などを特徴とする精神疾患女性に見られる鋭敏な共感覚について（PDF）
世界保健機関（WHO）のICD、米国精神医学会（APA）のDSMな

どに定義されていないが、これらに定義されている精神・身体症状と関連のある特殊知覚

英数字部分は、世界保健機関（WHO）のICD-10による障害・疾病のコード。この岩崎の解説ページの順序は、ICDと米国精神医学会（APA）のDSMの折衷案であるため、やや番号が前後しています。

寮にも、精神障害、発達障害、言語障害、性関連障害、自律神経失調症などを抱え、社会が要求するコミュニケーションや結婚生活の実現が困難であるものの、共感覚や直観像記憶などの特殊な個性を持ち、同性との共同生活には参加できる女性が生活しています。これらについてのご相談も、岩崎宛てにお送りいただいても女性寮宛てにお送りいただいても結構です。

ICD-10などに定義なし（障害・疾病と見なされない）
知覚・共感覚（寮では主に個室Aに居住。）
共感覚に関連する知覚様態・症状の一覧
概要

ICD-10などに定義なし（障害・疾病と見なされない）
直観像記憶（映像記憶）（寮では主に個室Aに居住。）
ICD-10 F30-F48 に付随する巨視感・微視感
不思議の国のアリス症候群（寮では主に個室Aに居住。）
ICD-10などに定義なし（障害・疾病と見なされない）

絶対音感（寮では主に個室Aに居住。）

ICD-10 G43

閃光暗点・偏頭痛（寮では主に個室Bに居住。）

ICD-10 などに定義なし（障害・疾病と見なされず、F30-F39 や F40-F42 としての診断が多）

Highly sensitive person (HSP)（寮では主に個室Aに居住。）

ICD-10 F80-F89

読字障害・失読症・ディスレクシア（寮では主に個室Aに居住。）

ICD-10 F80-F89

発達障害（寮では主に個室Aに居住。）

ICD-10 F80-F89 に付随する特異的高知能と見なされる

サヴァン症候群（寮では主に個室Aに居住。）

日本共感覚研究会が注意勧告している共感覚セラピーや共感覚ヒーリング、共感覚の科学的・心理的実験についての被害のうち、性的施術や脅迫行為、暴言などに伴う PTSD などの重大なストレス障害

日本共感覚研究会

ご質問・ご相談や通報の例

日本共感覚研究会

女性専用スペースへの移管内容について（女性スタッフ・入居女性に解説をお願いしている精神・身体症状や特殊知覚について）

女性専用スペースにて女性スタッフ・上記の寮の入居女性に管理していた内容、スペースのトップページに列挙されています。私のサイトは、この十数年間に女性の皆様からご相談いただいた精神・身体症状の大きな解説については、ほぼ網羅してきましたが、これらの症状の詳しいご相談、体験談については、ほぼ全て女性専用スペースに移管されております。

これらの症状をお持ちの女性の皆様は、寮では主に個室Bに居住されています。

女性専用スペースのログインページをご覧になりたい方は、スペースのトップページから私にお申し込み下さい。女性スタッフとの

相談の上、ログイン用のIDとパスワードを発行いたします。

これらの内容についての当サイト訪問女性の皆様からのご相談は、岩崎宛てにお送りいただくこともできますが、全面的に岩崎に代わって女性寮スタッフが対応することが可能です。どうしても相談内容を私に送りにくく、女性の対応を希望する場合は、女性寮スタッフにご相談を回すよう岩崎にご依頼下さってもかまいません。

重大なDV（ドメスティック・バイオレンス）や性的暴行・性被害に伴うトラウマや精神疾患、身体上の性関連障害・性依存・性症状などに伴うトラウマや精神疾患など、女性に特有の症状であっても、ICDとDSMに定義される限り、前述の通り、岩崎が解説を網羅的に執筆し、提供しています。

女性寮そのものやご入居についてのご相談も、岩崎宛てにご連絡いただいてもかまいません。女性寮のスタッフと連携し、対応させていただきます。

これらの症状や知覚のために、あるいは、これらの症状や知覚の原因や結果であるパワハラ、セクハラ、いじめ、性的暴行などの被害によるトラウマのために、社会生活、就職、外出（見知らぬ人との会話、人前での飲食、街での歩行など）、文字の読み書き、衣服の着替えなどの日常生活に著しい苦悩や困難を感じている場合、なるべく女性スタッフが居住する上記の女性寮にご入居いただけるよう、岩崎としても優先的に対応いたします。

第四部 非公開シェルター型女性シェアハウスとのコンテンツ

連携について

二〇一六年四月三十日、起筆、摺筆、公開

女性に特有の精神・身体症状や共感覚、その他の特殊知覚状態について私（岩崎純一）にご相談下さっている（ご相談を検討されている）女性の方々向けの解説を、以下のページに書きました。

特に、女性から私の元にご相談をお寄せいただいている精神・身体症状のうち、社会通念上、男性である私のサイトで扱うよりは、女性の皆様自身が解説を担当したほうが望ましい内容について、内訳を書いていきますので、ご参照いただければ幸いです。

現在、該当する症状の解説は、主に「(続) 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」のメンバーが住む女性寮（精神障害、DV・性被害、共感覚などを抱える女性による非公開シェルター型シェアハウス）の女性スタッフや入居女性にお任せしております。

「シェアハウス型女性寮との連携、および入居女性による特殊症状・知覚の解説の分担について」

<http://iwasakijunichi.net/women.html>

（二〇一八年七月十二日に追記：現在は『全集』に収録。）

私自身、自分にまつわるこういった名称のサークルが周囲で作られることについて、嬉しいながらも、いつも色々と複雑な思いはあります。人間の感覚・知覚・認識・思考・社会・歴史全般をまじめに哲学する、という私自身の原点を忘れないためにも、こうしてかなり堅苦しい断り書きをサイト上に載せることがあります。ご理解のほどよろしくお願い致します。

共同体や理想郷といった概念について、上記の私にまつわるサークルと関連付けて、別のブログ記事も書いておきました。

<https://iwasakijunichi.net/iwasaki-ningengaku-blog/175083130.html>

(二〇一八年七月十二日に追記：現在は『全集』に収録。)

第五部 我々一人一人の人間に宿命づけられた生涯の仕事について（私に課せられた哲学的共同体・理想郷の追求）

二〇一六年四月二十八日 起筆、攔筆、公開

目次

■序文

■各「岩崎純一さんの会」の栄枯盛衰

■喜びの背後にある孤独感との闘い

■永劫回帰する生への「運命愛」を共有できる共同体を目指して
■宗教化を自分で阻止する自制機構という知性の必要性

■序文

今回書くことは、今年中に出ることになっている日本大学藝術学部の機関誌「日藝ライブラリー」の松原寛（日藝創設者・哲学者）特集や、畑中純（漫画家・版画家）についての評論集に詳しく書いたので、そちらをご覧いただければ嬉しいが、簡単に言えば、共同体論・理想郷論や総合芸術論・総合文化論をテーマとして書いている。

ブログでは、もっと私自身に惹きつけて、概要を書いておきたい。



〈宮沢賢治の「羅須地人協会」〉

■各「岩崎純一さんの会」の栄枯盛衰

ここ最近では、我々一人一人の人間に宿命づけられた生涯の仕事というものがあるかどうかというテーマが、大変気になっている。もつと言えば、全身全霊、命を賭けてでも自分はこれをやりたいという仕事があるかということである。

こう書くと、まるでいわゆる「社畜」としての男の仕事論・労働論のようだが、ここではそんな俗的で生ぬるいものではなく、ニーチェが言うところの「運命愛」的に愛し続けざるを得ないような、永劫回帰する生における自分の仕事（死ぬまで、いや、死んでも就業し続けたい仕事）のことである。人生の中に仕事があるのでなく、「我々人間にとつての最大の仕事は人生である」と言うときの、仕事のことであり、しかしながらその人の「力への意志」にしか務まらないような、唯一無二の仕事のことである。

その一つが、私にとつては、おそらく「総合芸術的・精神的・哲学的共同体の追求（現実社会か芸術上かを問わず）」や「その背後にある普遍的構造の哲学的探究」なのだろうと考えている。最近切に思うのは、私は、今私が評論を書いている松原寛、畑中純、宮沢賢治といった哲学者や芸術家に私淑し、氏らの芸術精神や共同体理念、ひいては文化観・国家観を継承すべきなのだろう（継承したい）ということである。

続 岩崎純一さんに会いたい会

続 岩崎純一さんに
会いたい会

私自身にとつて最も名称が衝撃的だった（最初は照れくさかったとも言える）「岩崎純一さんに会いたい会」が開催されたのは、二〇一二年だった。これは、女子大生が大学の担当教授に掛け合って、大学の特別講座として開催された。この学生は、当初から「自分は自閉症的な強い感受性を持っていて、岩崎さんのサイト・文章・哲学に出会い、救われたので、会いたい会の開催を決意した」旨を送ってきた。そもそも、初回のメールを送ってくる前から、徹底して私の文章を読んでおり、初回のメールの時点で「会いたい会」の開催を決意していた。

後日、この女子大生に影響されて私のサイトを片っ端から熟読した、大学や職場を休みがちな別の女子大生・OL、そして私に似た感覚・哲学世界を持つ息子さん・娘さんがいる主婦が、「続 岩崎純一さんに会いたい会」を作った。これも、「会いたい会」と同じよう

岩崎純一さんのお話を聴く会

岩崎純一さんのお話を聴く会

に、大学でチラシが貼り出されたり配られたりした。ただし、学究的な客観性を持たせるために、学生が大学の授業に無理矢理ねじ込もうと担当教授に懇願したところ、担当教授が呆れ果てて取り合わなくなつたため、二回目からは大学を離れて単独サークル化した。しかし、ここでもこれらの女性たちはそれぞれ、「私はとても感受性が強く、学校生活・職場での苦しみや社会情勢の悪化、事件や事故や天災のニュースの目撃によって、簡単に泣いたり、鬱状態に陥つたりするが、岩崎さんの文章・物事のとらえ方を読むと疲労が減るのであり、ありがとうの気持ちを言いたく思い、自分の手で会いたい会を続けたいと考えた」、「私が息子の発達障害や共感覚などの感性をバカにして息子を虐待せずに済んだのは、岩崎さんのサイトがあったから」と連絡してきた。無論、大変嬉しかったが、同時に、あんなに物静かでおとなしい女性たちが、なりふり構わずこんなタートルで出会ったばかりの赤の他人の応援サークルを立ち上げるものなのだと言きもした。

「岩崎純一さんのお話を聴く会」も、また別の大学を休みがちな女子大生が作った。そこにまた、OLや主婦が加わった。ここでも、社交不安障害や鬱状態の女性が集合した。中には、雨の中を泣きながら裸足でやって来た女性もいた。「岩崎純一さんとの合同勉強会」も、実状は全く同じだ。

このような経緯の中、私は、いわゆる世界保健機関(WHO)のICD第五章やアメリカ精神医学会(APA)のDSMなど、日本も採用している精神障害リストに記載されている精神障害のほぼ全てについて、それぞれの障害・症状を抱える人々、とりわけ発達障害・言語障害の男児・成人男性と、トラウマ・PTSD・社交不安障害・恐怖症・鬱などを抱える女性・子供たちに出会うことができた。

岩崎純一さんとの合同勉強会

岩崎純一さんとの合同勉強会

こういうことを書くとき必ず、文章の奥の真意を読み取らずに邪推する人が出てくるので、一応書いておくが、私はこれらの女性たち

のサークルの発足・変遷に一切関わったことがない。ただし、少しは邪推を許すとすれば、色々な人間関係や恋愛模様は栄枯盛衰している。だが、それは一般の職場の人間関係と同じで、当然のことである。

サークルメンバーは、一部ずつが重なっており、次第に会の場所が、そのメンバーたちが居住する女子寮や女子シェアハウスに移動するようになった。そのうち、私がいなくても開催されるようになった。とりわけ、メンバーが寮生の半数を占める女子寮の中に、「続会いたい会」などの本部が置かれることになった。

●シェアハウス型女性寮との連携、および入居女性による特殊症状・知覚の解説の分担について

<https://iwasakijunichi.net/women.html>

(二〇一八年七月十二日に追記：現在は『全集』に収録。)

精神の居場所と物理的な開催場所との関係は、かなり難しいが、こればかりは物理的・経済的制約を免れない。そういうことになったおかげで（せいで）、男性の私はせいぜい寮の共用スペースにしか入れないし、寮のスタッフと外で談義するという段取りになってきた。私は今のところ、例えば女子寮の実務上は、サイトシステムを提供し、彼女たちが好きに活動できるようにはしている。

私をめぐる動きは、ずっとこのような状態である。私が私である限り、そして生き方を変えない限り、このような動きはずっと続く

だろう。

■喜びの背後にある孤独感との闘い

こうしてみると、私は自身の哲学的・精神的・社会的役割というものを考えざるを得ない。ほんの一個人・一人としてサイトを立ち上げている人間に連絡をとった大学を休みがちな女子学生が、大学内にサークルを結成して先生を困らせたり、社会人女子シェアハウスが、一棟ごとその私人の応援サークルを結成した例が、日本にどれくらいあるかを調べたが、全く同じ例は今のところはないようである。

それぞれが別個に立ち上がっているサークルであるにもかかわらず、私の周囲に最後まで残っている女性・子供たちは、言うこと為すことや、悩み苦しみの傾向が似通っている。ところが、それを現代日本社会全体に照らした場合、驚くほど少数派だ。私が職場や街で見かけたことがまるでない人たちである。ということは、この傾向は、女性・子供たちの側が生み出しているのではなく、私の言説や哲学やサイトの雰囲気のほうが生み出している現象であって、そのような人々を集めやすい何かを私が醸し出しているということに他ならないわけである。

人は、自分（自己）に対して向けられる他人（他己）の眼差しによって、自分に求められている生涯の仕事を知ることができる。そ

れが会社員や医者や弁護士である場合も短期労働者・アルバイトである場合も、どんな仕事でも立派であるし、私の場合は、学問の原点からしてニーチェ哲学・実存哲学・東洋哲学・大乘仏教哲学や日本の文化論や政体論である。今でも私の仕事はこれだと本気で思っている。

人にはそれぞれ、社会に対して醸し出している空気や雰囲気というものがあるのであって、いかなる言動をしたところで、その空気や雰囲気を外れる人格・風格・知性を社会に感じさせることはできないし、それらを外れる人生を歩むこともできない。私自身もまた、その自身の空気において人生を展開・謳歌するほかないのだ。

私自身の約30年間の人生を振り返ってみるに、そもそも「私の本質」として、心に重傷を負った女性・子供たちによって前出のような精神的コミュニティが形成されるように最初から宿命づけられているというほかないのだろう。

見てきた通り、私にまつわる応援サークルを立ち上げているのは、全て女性である。彼女たちが私をめぐって、大学や職場やNPOや家庭を離れた別の共同体を組織しようとしているということは、私がサイトやブログや彼女たちとの談義で展開している共同体概念や哲学（彼女たちが言うに、「心の交流のあり方」）が現代日本社会に存在していないか、存在自体が極めて困難であることを示しているのだし、そのことを女性の生理的な本能と直観が言っているのだから、ある意味では、私自身が私自身に恐怖せざるを得ない一方で、孤独をも感じざるを得ない。

あるいは、私のサイト・文章・哲学を通じて、どうしても既存の社会構造、医者・患者関係、NPO、家族・親族関係においては見られないタイプのコミュニティが形成されているということは、医者やNPOや両親・親戚、そして時代や社会や大学や職場が、これらの人たちに対して、私が接しているような方法では接していないということの意味している。

私の元に来るご相談は、女性たちが述べるに、彼女たちの大学の担当教授や主治医たる精神科医やカウンセラーには本質的・哲学的に理解してもらえなかったものばかりだ。例えば、「精神科医やNPO法人の職員から性的いやがらせを受けてから、男性が触った文具や電車の吊り革を持ってなくなりました」、「発達障害の妹がいて、姉である私は結婚しましたが、妹への罪悪感に生きており、幸せとは何かを考え直すために離婚しました」、「両親から受けたトラウマで、定期的に住まいを変えています」などだ。

そうであるから、私がこれらの女性たちを病院やNPOや両親の元に送り返すことほど愚かな「時代と社会への追従」はないわけで、私は医者や心理学者とは全く異なる、哲学上の役割を期待されていることが分かる。こういう相談を受けて、瞬時に直観的に反応の仕方と回答が見えない人間や、このような相談に総合芸術的な美を覚えない人間には、おそらく生涯これらの相談に答えることはできない。

以前、DV・性被害女性を救っているというNPO法人の女性幹部と話をしたが、被害女性がなくなったら、私たちは終

わりだ」という旨のボロを吐かれたことがある。つまりは、DV被害や性被害の生産は、NPOの女性スタッフの元気の源であり、法人存続の原動力なのだ。本気で加害者を叩こうとはしていない。ちなみに私は、仕事上、会社、社団、財団、NPO、特殊法人などの各法人の根拠法令を読んでいるが、法令自体の瑕疵という意味では、実はNPOが最も、知識を持たない営利目的の企業戦士女性が立ち上げて運営しやすいからくりになっている法人組織である。私に関わるべき分野ではないと考えている。

■永劫回帰する生への「運命愛」を共有できる共同体を目指して

一人の人間が一生のうちにできる仕事の量（金銭的対価を得る意味での労働とは限らない）は有限だが、もし神か仏（こう書くとき宗教的な意味合いが濃くなるので、絶対的・普遍的一者としておく）によってその人に宿命づけられている仕事というものがあり、私にもそれがあるとするならば、私に宿命づけられた仕事は、私の言説それ自体に安心を覚えると述べている前述の人たちの気持ちを愛し、守ることによって、私自身の永劫回帰する生への「運命愛（宿命愛）」を確認し、相談者の「運命愛」に答えるということではないかと思う。

ただし、残念なことに、外国勢力から守るのも何でもなく、日本人（例えば、かかりつけの主治医の精神医学観や、既存のNPO法

人や、虐待加害者たる両親）から守るという実務・実践的行動に出なければならぬところは、全く滑稽と言うほかないが。

「愛する」、「守る」と言っても、恋愛の意味から家族愛、友情の意味まで様々だが、ここでは例えば、かのショーペンハウエルが述べるところの「意志」によって突き動かされているものとしての、愛の気持ちのことだ。ある一人の人間の自由意志による行動に見えるものは、同時に、背後にある普遍的価値によって自動的に突き動かされている行動でなければならない。

クリスチャンでもないのにクリスチャンを気取った言い方に聞こえるかもしれないし、私自身は大学でニーチェ哲学・実存哲学・東洋哲学・大乘仏教哲学をやった身だが、ここでは、致し方なく「運命愛（宿命愛）」と呼んでみた。「運命愛」の語は、ニーチェも使っているもので、とりあえず、わざとらしく変えて「宿命愛」としよう。

この「宿命愛」への強烈な関心は、東京大学を途中で捨てることを決めた時にはすでにあつたが、今、この「宿命愛」に基づく共同体の現代日本社会における実践の可能性について考え、そのような共同体を愛することを許される機会を、日本大学芸術学部のドストエフスキー研究者・図書館長の清水正・文芸学科教授から二つの原稿の執筆依頼という形で頂き、書いているところである。今度は、学生が私の応援サークルを学内に立ち上げて先生を困らせているのではなく、先生のほうから「岩崎よ、君自身が君の哲学や理想郷論を語ってみよ」と宿題を出されたのだ。私はそうとらえている。

一つは、私の周囲に形成されていたり私が目指している共同体が、（一見するとただの成人漫画家に思える）畑中純が目指したそれに類似している可能性を踏まえて、執筆している。畑中純も尊敬していた宮沢賢治が「羅須地人協会」という現実の農村共同体や「イーハトーブ」という文芸上の理想郷を作り上げたように、各「岩崎純一さんく会」「シリーズやそれらを合わせた女子寮内共同体は、おそらく私に宮沢賢治のような原始共同体的理想郷の考案者としての役割を期待していることになるだろうし、そう言われなくても、私はそのような理想郷を目指している。

もう一つは、日本大学藝術学部（日藝）を創設した松原寛（哲学者・クリスチャン）について、特にそのキリスト教観や共同体観を軸に、執筆している。松原寛は、日藝を発展させた後、天理教に入信してみたり、戦争賛美に走ったりするのだが、一貫して「キリスト教の日本化」や「日本的宗教心に基づく共同体理念」を模索しており、これがまさに「岩崎純一研究会」を掲げる女性たちや私自身、今後NPOのような法人組織でも宗教組織でもない、宮沢賢治的な芸術・哲学・精神共同体の境地を目指すためのよい刺激になると感じている。

■宗教化を自分で阻止する自制機構という知性の必要性



《武者小路実篤の「新しき村」》

畑中純も松原寛も、自身の文芸や哲学が目指す共同体が安易な宗教的共同体に陥らないように、常に気を張り詰めており、あらゆる既存の共同体の問題点を研究している。このあたりの危機感が私に似ているので、大変に助かる。

二人が著作中に挙げている、「やや感心はできるものの、最終的には棄却せざるを得ないカルト的な理想郷概念」を列挙すると、武者小路実篤の「新しき村」、有島武郎の「有島農場」、西田天香の「一燈園」、山岸巳代蔵の「幸福会ヤマギシ会」、尾崎増太郎の「心境部落」などがある。今でこそ、後半三つが宗教的であるという意見が多いようだが、当時は武者小路実篤の「新しき村」が最もカルト的

で危なかったというのは、畑中純の言う通りである。松原寛は宮沢賢治を挙げていないが、畑中純も私と同じように、最終的には宮沢賢治の共同体観に最も強いシンパシーを覚えている。

理想郷観について私は、畑中純論の中では、古今東西のユートピア・理想郷概念を比較検討した上で、「武者小路実篤や畑中純ら芸術家によって、日本国に対する日本的・神話的共同体の死守行動としての理想郷困い込みや理想郷文芸創作が行われたのは、歴史的必然である」旨、「国家が高度成長期に推し進めてきたグリーンピア・かんぼの宿・リゾート・テーマパークなどの巨大ハコモノ建設のほうが、カルト宗教そのものでないと言える理由はどこにもない」旨、そして、「最終的には畑中純や宮沢賢治の日本的共同体概念や人間観・神話観・民俗観以外に日本が日本を維持する道はない」旨を書いた。

また、松原寛論においてもほとんど同じことを書いたが、「日藝と言えば、芸能人養成施設たる日本大学芸術学部の略語のように思われているが、本来は日本芸術の略語であつてもおかしくはなく、松原寛の総合芸術・総合文化共同体建設の野望の真意を汲み取るべきである」旨を書いた。

昨今は、自衛隊や米軍基地をめぐる安全保障問題が取り沙汰されているが、前出のように、私の元には、国内の人間が敵（児童虐待の加害者など）であるような相談が来ているのだから、私自身は基本的に軍事的保守主義ではなく文化保守主義的であるとしか言えない。男は永遠に兵士であつて、敵を討ち続けなければならないこ

とは私も否定しないが、その敵が国内にいる以上、日本国民全体を守る意志と大義が生じるはずもない。

そうとなれば私は、前出の会を結成している女性たちに対して、「自分たちが現代日本社会の様々な事情（職場・家庭環境を含む）から受けたトラウマへの反骨精神が、日本の神話・民話の世界、原始的共同体概念、宮沢賢治のような悪魔的なほどに心優しい共同体概念に直結するようなあり方」において、岩崎純一に関する会を運営するように助言することを、仕事とするのが筋だろう。

（ここで、私と同じく哲学をやった人間なら、私の実存が私の本質に先立つかどうかを追究したくなったり、これらの女性たちや私の虚無がカミュ的な不条理の甘受であるのかサルトル的なアンガージュマン・社会参画であるのかを知りたくなるだろうが、これについては、後日機会があれば書きたい。）

「社会や街に出て出会えるのは、社会や街に出ている人々のみである（社会に出ると人に助言する人の短絡的な価値観から超然として、私は社会や街の間隙を突き続ける人生を送りたい）」という大学時代からの私の信念は、こういった秘密結社の女性サークルメンバーによって、見破られ、裏付けられていると言えそうだ。

そのような時代や社会の「よどみ」が、一個人・一人としてサイトの運営を始めた私の元に（しかも、最初はサイト・ブログに表現された私の哲学への接触をきっかけに）なだれ込んでいくという時代と社会の深層構造それ自体を哲学的に探究し続けることが、私の仕事なのだろう。

この連体中は、新花巻の宮沢賢治記念館などを訪れるが、私の今後の理想郷・共同体概念を熟考する機会としたく思う。

「続 岩崎純一さんに会いたい会」の中には、巨大なアウトサイダー・アートと言える高知県の「沢田マンション」に見学に言った女性がいる。沢田マンションとは、ウィキペディアにも載っているが、ある夫婦が自力で（非合法的にだが）建てたマンションで、今や名物化しており、かえって入居者どうしが強固な精神的連帯と防災意識とを有している一つの理想郷である。日本人が忘れかけたものがここには沢山あると、私も感じている。

それで私も、個人が（物理的か芸術上かを問わず）建設した共同体・理想郷を色々と勉強してみている、今回、突然かつ人生で初めて、マンガ内に描かれた理想郷の評論などに挑戦したというわけだ。そして、結局のところこの作業は、私自身が造ろうとしていたり、私の周囲の方々が造っている私にまつわる共同体・理想郷のあり方を、私に考えさせる結果となった。

■関連ブログ記事

（二〇一八年七月十二日に追記…現在は『全集』に収録。）

●非公開シェルター型女性シェアハウスとのコンテンツ連携について

<https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-blog/175104249.html>

■画像出典

●羅須地人協会

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%85%E9%A0%88%E5%9C%B0%E4%BA%E5%8D%94%E4%BC%9A>

●新しき村

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E3%81%97%E3%81%8D%E6%9D%91>

第六部 二〇一六年末の一斉送信メールの転載

二〇一六年十二月十一日 起筆、攔筆、送信

二〇一七年一月八日 公開

（二〇一八年七月十二日に追記…現在、リンク先の内容は『全集』に収録。）

以下の皆様各位

（岩崎純一のウェブサイトのご訪問者・閲覧者・ご相談者、共感覚実験などでご協力いただいた方々、勉強会・交流会関係の方々）

拝啓 師走の候、ご多用の中失礼いたします。

平素は大変お世話になっております。ご無沙汰しております。

およそ半数ほどの方々には、半年から一年ぶりのご連絡となっております。大変ご迷惑をおかけしております。申し訳ございません。

さて、共感覚や直観像記憶（映像記憶）、発達障害、サヴァン症候群など、人間の知覚・感性全般への関心からスタートした「岩崎純一のウェブサイト・ブログ」も、現在では様々な分野を扱う場となり、大学に招聘いただいて講義を行うなど、活動は教育現場にも広がってまいりました。

一方で、サイトへのご訪問者・閲覧者を集めて開催する勉強会・交流会は、実施が滞っており、申し訳ございません。

下方に、本年二〇一六年の各分野での活動や動向を記しておきましたので、ご参照いただければと存じます。

敬具

岩崎純一

● 岩崎純一のウェブサイト

<http://iwasakijunichi.net/>

● 岩崎純一学術研究所

<http://iwasakijunichi.net/jikenkyujo/>

● メールアドレス

iwasaki.j@iwasakijunichi.net

~~~~~

記

◆【共感覚関連の動向】

本年は、私の共感覚関連活動があまり振るわなかったのみならず、五百名の被験者を募集していた日本共感覚協会（東大の松田英子氏主催）のサイトが閉じられるなど、日本の共感覚界全体としての転機の年だったようです。

ただし、研究者の共著である『共感覚から見えるもの』（北村紗衣編、勉誠出版）が出版されたことは、有意義でした。

二〇一五年に引き続き、日大芸術学部などの芸術系大学・学部から共感覚で卒論を書く学生が出たほか、日大の文芸学科の山下聖美先生など、本著の著者とも大いに交流させていただきました。

私自身は昨今、数名の仲間と共に日本共感覚研究会（名称は協会と似ているものの、別団体）として、共感覚研究そのものよりも共感覚者や研究者の動向を追うことを主眼としておりますが、ここ数年間は、危険ドラッグや大麻、コカイン、MDMA、覚せい剤などを服用している共感覚者を発見することが増えております。

私自身の関心も、共感覚や発達障害の自然科学的研究よりは、危機感から日本の社会・教育・時代の現状の是正へと移っており、共感覚探偵と化しております。

今年、女性セブンからのインタビューを受けたのも、子育てをする母親への啓蒙のためです。（バックナンバーから購入可能です。）

二〇二〇年の東京オリンピックなど、日本全体で盛り上がるの機運を高める必要があるためか、政府や学術団体の文化事業の一つに「共感覚イノベーション」事業が含まれるなど、今後はグローバルな商業ベースや日本の国益に直結するような共感覚ビジネスや感性関連事業が発展していくものと思われまます。いわゆる「IR推進法案」も衆院で可決され、成立する見通しで、カジノ産業・ギャンブル産業とも重なっていくのでしょうか。

ただし、大麻などの一部の薬物が合法化されている欧米の国や州では、当然、日本ではできない薬物共感覚実験が可能であり、最も日本の法令から遠い価値観を持つのがオランダです。

芸能人の違法薬物関連犯罪は、大々的に報道されますが、共感覚と違法薬物の結びつきも、当然こういった薬物ブームと連動しております。

今年も、元野球選手の清原和博やミュージシャンのASKAなど、スポーツ選手・芸能人・文化人が逮捕され、そのたびに、当サイト宛てに共感覚と覚せい剤などの違法薬物との関連に関する賛否両論のお問い合わせがあり、私としても危機感を持っているところです。

● 日本共感覚研究会

<http://wasakijunichi.net/jssg/>

● 知覚・共感覚のページ

<http://wasakijunichi.net/synaesthesia/>

.....

◆【その他の知覚関連の内容（超音波知覚など）】

超音波知覚については今年、産業技術総合研究所（AIST）に出向いて、超音波知覚者コミュニティ東京でのフィールドワーク活動を報告し、妄想性の共感覚や統合失調症の幻覚との区別が理解されるなど、有意義な年となりました。

共感覚者や発達障害者が皆超音波知覚者とは限りませんが、今後とも以下のコミュニティのマップを中心に更新し、消費者庁や公正取引委員会などに調査結果を報告してまいります。

また、何軒かの個人宅から、隣人の庭先の猫除け超音波装置などによる睡眠妨害などのご相談を受けております。

こちらにつきましては、公共施設・商業施設などの装置についての調査よりも対応が遅れてしまうことをご理解いただき、お待ちいただいている状況です。

● 超音波知覚者コミュニティ東京

<http://iwasakijunichi.net/choonpa/>

◆【岡山県の陸軍部隊の調査】

共感覚や発達障害、精神病理学などに関連して、一見関連のない岡山の郷土部隊の研究が進んだ年でもありました。

私の親族・知人には、共感覚者、アスペルガー症候群傾向の人間や軍人関係者が多く、陸軍将校であった祖父や近衛兵であった曾祖父に見られる戦争神経症をはじめとして、殺人、致命傷、暴行加害、暴行被害などによる脳へのトラウマ的ダメージが共感覚やHSP（ハイリー・センシティブ・パーソン、極度の過敏体質）、発達障害、サヴァン症候群などの出現などにどう影響するかを知りたく、まずは戦史の事実関係を調査しております。

かの石原莞爾がアスペルガー症候群だったと言われるなど、当時の上中級軍人には特殊能力者を思わせる痕跡はかなり多く、むしろん当時は戦争勝利のための能力が求められたにせよ、陸軍将校・近衛兵の血を引く共感覚者である私としましては、極めて関心が深いところ です。

岡山出身の閲覧者の方は少ないですが、ご関心のある方はご注目下さい。

● 岡山の郷土部隊の調査研究

<http://iwasakijunichi.net/okayama/>

◆【岩崎式日本語の開発】

この言語についても活動は続けておりますが、進展の程度は芳しくないところです。

ただし、本年は、東京芸術大学大学院の関根ひかり氏と共に、下記の特設サイトを立ち上げ、活動を開始しました。

岩崎式日本語の世界は、いわば語学どころではなく、言語学、哲学、人間学、精神病理学、数理論理学などを含んでおり、難解であるというほかに、人に勧めるといいう性質のものではないですが、ご関心のある方は今後ともご注目いただければ幸いです。

● 岩崎式日本語・言語学のメインページ

<http://iwasakijunichi.net/gengo/>

● 岩崎式言語体系ペディア（百科事典）

<http://iwasakijunichi.net/isrelangs-pedia/>

● 岩崎式日本語特設サイト

<http://iwasaki-conlang.com/>

◆ 【各種被害女性の専用寮への協力】

以前より、性被害、DV被害、特殊な身体障害などを抱える情報秘匿型の女性寮の総務・事務・サイトシステム管理の協力をさせていただいております。

教室にまでお邪魔して学生に語る大学での講義とは異なり、(各女性の個室に入れないので) 共用スペースや庭先程度までの訪問になつておりますが、簡単な座談会などに招聘されており、今後とも活動を続ける予定です。

こういった被害女性専用施設(DVシェルターなどと呼ばれる)は、施設名称や所在地などの情報公開型(ノンコンフィデンシャル)と情報隠蔽型(コンフィデンシャル)とに分かれており、前者はNPOや自治体、後者は心ある個人資産家や被害者の親族・遺族の手によるものが多くなっております。

私のサイトへのご訪問が縁でご入寮された女性は、性被害やDV被害によって脳神経系がダメージを受け、共感覚や場面寡黙症、社交不安障害などが発現した女性となっております。

● シェアハウス型女性寮との連携、および入居女性による特殊症状・知覚の解説の分担について

<http://iwasakijunichi.net/women.html>

● 女性寮サイト

<http://iwasakijunichi.net/women/>

←

【追記始め…二〇一七年十月十三日】

現在は下記に移動。

● 女性専用スペース

<http://iwasakijunichi.net/women/>

【追記終わり…二〇一七年十月十三日】

◆ 【和歌・古典の調査】

同じく長年続けております和歌・古典関連では、本年もいくつか調査・研究を提供いたしました。

地方の神社の境内には、今でも建立の経緯や出典が不明の歌碑(石碑)があり、地元住民の団体からこの和歌の分析・解釈を依頼され、提供するなどしました。

その他、以下のページをご覧ください。

●和歌の調査研究・仕事歴

<http://i.wasakijunichi.net/waka/rireki.html>

◆【ウェブサイト自体について】

岩崎純一のウェブサイトは、ソースコードも岩崎の手打ち入力による自作であり、本年から本格的にスマートフォン対応いたしました。

Googleは、端末の画面幅によって自動的にレイアウトが変わるレスポンシブ・デザインを推奨しておりますが、最近ではこれを好まず、こだわりのあるサイトを望む人も増えており、本サイトも、手動でのレイアウト切り替えボタンを設置しております。

また、白黒基調の新聞のような外観を好む私ではありますが、現在のところ、長年の皆様との交流で定まってきたテーマカラーである緑を基調としたサイトになっている次第です。

万人向けのサイトというものはないとは思いますが、ご要望やご不満点などあれば、ぜひお問い合わせ下さい。

◆【ご意見・ご感想・ご要望などをお寄せ下さい。】

●岩崎純一のウェブサイトへのご意見をお寄せ下さい。

(ここが見にくい、こういうページが欲しい、など)

●岩崎純一の活動へのご意見をお寄せ下さい。

(こういうことをして欲しい、など)

●岩崎執筆の文章が掲載された無料学術雑誌で、まだ在庫があるものがございます。ご希望いただければ郵送いたします。詳しくはサイトをご覧下さい。

◆【一部の方へのお願い】

時々、岩崎純一のウェブサイト内の共感覚画像などを、著作権法に違反して、商品として使用し利益を得たり、岩崎が一部の権利を持つ(出版権は出版社が持つ)岩崎登場の雑誌ページをスキャンしてネット上にアップしている方がおられます。

後者の場合、私自身の権利上の処理のみならず、出版社への厚意での報告など、本来不要な手間がかかってしまいます。

岩崎純一の多くの著作物は、著作権法や岩崎自身が主張している

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの下で提供しております。  
以下のページ内容にご注意いただければ幸いです。

●法令に基づく表示

<http://iwasakijunichi.net/law.html> (岩崎純一のウェブサイト内)

<http://iwasakijunichi.net/law.html> (岩崎純一学術研究所内)

-----

長い報告となりましたが、ご一読いただいた方々には厚く御礼申し上げます。

以上

岩崎純一